

高齢者の肺炎球菌予防接種を受けられる方へ

浅口市

1 肺炎球菌について

肺炎は、現在日本人の死因の第5位で、成人肺炎の25～40%が肺炎球菌によるものです。抵抗力が弱まった時などに感染しやすくなり、急激に重症化することがあります。特に高齢の方は注意が必要です。肺炎球菌が引き起こすその他の病気として中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などがあります。

2 ワクチンの効果と副反応

肺炎球菌ワクチンは、肺炎のすべてを予防できるわけではありません。肺炎球菌には90種類以上の型があり、そのうち23種類の型に対して接種することで免疫をつけることができます。このワクチンは、1回の接種で5年以上免疫が持続するといわれています。

ワクチン接種に伴う副反応としては、局所の疼痛、熱感、腫脹、発赤などが見られることがあります。全身反応として、筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱などもありますが、いずれも軽度で2～3日で消失します。

3 注意点

予防接種を受ける義務はなく、ご本人が希望する場合のみ行います。ご本人が、麻痺等があつて同意書に署名できない場合や、認知症の症状で正確な意思確認が難しい場合等は、家族や医師により特に慎重にご本人への接種意思の有無の確認を含め、接種適応を決定する必要があります。（最終的に確認できなかった場合、予防接種法に基づく接種はできません。）

4 次の方は接種を受けないでください

- (1) 明らかに発熱している方（37.5℃以上）
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) 本剤の成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある方

※「アナフィラキシー」とは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。

- (4) その他、医師が不適切な状態と判断された方

5 次の方は接種前に医師と相談してください

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患のある方
- (2) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及びアレルギーを疑う症状がみられた方
- (3) 過去にけいれんを起こしたことがある方
- (4) 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (5) 本剤の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

6 予防接種後の一般的な注意事項

- (1) 接種後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）にすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) 副反応の多くは24時間以内に出現します。特にこの間の体調に注意しましょう。
- (3) 入浴しても構いませんが、注射部位を強くこすことはやめましょう。
- (4) 接種当日は通常の生活をして構いませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。